文部科学省

地域中核・特色ある研究大学強化促進事業（J-PEAKS）
全体の事業評価実施要領
別紙

令和７年２月28日

文部科学省科学技術・学術政策局

目次

1. J-PEAKSの全体の事業評価における評価指標について（概要）・・・・・・・・ P. 2

2. J-PEAKSの事業として成功している状態 ・・・・・・・・・ ・・・・・・ P. 3～5

3. 短期・中期・長期の視点で見たJ-PEAKSの事業全体の成功している状態の変化・・ P. 6

4. ロジックモデル ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P. 7

5. 評価方法及び評価タイミングの考え方 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P. 8

6. 評価指標一覧 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P. 9～13

J-PEAKSの全体の事業評価における評価指標について (概要)

J-PEAKSの事業として成功している状態

J-PEAKSの事業として成功している状態(**目指す10年目の姿**)を以下の項目ごとに定義

事業全体として成果を創出している

Ⓐ 特色ある研究の国際展開
J-PEAKSの採択大学/連携大学等が、それぞれ強みを持つ研究領域において、世界トップレベル・オンリーワンの研究拠点となっていること

Ⓑ 地域の経済社会や国内外の課題解決
J-PEAKSの採択大学及び連携大学等が、地域経済の活性化、地域振興、地域課題や地球規模の課題 (SDGs、パリ協定 等) の解決に繋がる研究成果の社会実装を実現し、学外のステークホルダーからその成果が認知・評価されている

Ⓒ 研究大学群の形成
特定の研究領域において、複数の研究拠点間で研究資源を柔軟に共有し、共同研究を行うことで、相乗的・相補的な連携を構築し、成果を創出していること

各大学が役割を果たすための機能の強化ができている

Ⓓ 機能①:学術的卓越性
強みを持つ研究領域において、国内外の研究者/国際的な研究機関よりその成果が評価され、世界トップレベルの研究拠点となっていること

Ⓔ 機能②:地球規模のイノベーション創出
地球規模の課題解決や社会変革に繋がる研究成果を創出し、それらの研究成果をもとに国内外での社会実装や産業振興を実現できていること

Ⓕ 機能③:地域課題解決
地域経済の活性化、地域振興、地域課題解決に繋がる研究成果の社会実装を実現できていること

役割を果たすために必要な要素が出来ている

Ⓖ 各大学が期待される機能①~③を満たすレベルに研究力が向上
各大学が目標として定めた、Ⓓ~Ⓕの機能強化を実現するための指標を達成していること

Ⓗ 研究力強化を実現するための、大学の経営改革の実現
全学、研究科・センター等、プロジェクトの各レベルで大学経営を改革し、成果の創出と継続改善の循環サイクルを構築できていること

ロジックモデル

J-PEAKSの事業として成功している状態を踏まえ、アウトプット・アウトカム・インパクトを整理しロジックモデルを作成

インプット

↓

活動/アウトプット

↓

アウトカム
※短期(3年)、中期(5年)、長期(10年)に分けて設定

Ⅰ 学術的卓越性の強化を通じた特色ある研究の国際展開 Ⓐ Ⓓ Ⓒ

Ⅱ 研究成果の社会実装を通じた地域・国内外の課題解決 Ⓑ Ⓔ Ⓕ Ⓖ

Ⅲ 研究大学群の形成 Ⓒ

Ⅳ 研究力強化を実現するための大学の経営改革の実現 Ⓗ

↓

インパクト

評価指標

ロジックモデルに基づきⅠ~Ⅳに分類された各アウトカムの指標を設定

「Ⅰ学術的卓越性の強化を通じた特色ある研究の国際展開」における主な指標
論文の質:Top10%論文数
論文の量: 査読付き論文数
論文の国際性: 国際共著論文数
研究基盤: 研究支援者数、研究者数、外部資金収入(大学予算に占める割合) 等

「Ⅱ研究成果の社会実装を通じた地域・国内外の課題解決」における主な指標
ネットワーク構築: 大学以外 との間で締結されたパートナーシップ数、共同/受託研究数
商業化(イノベーション): スタートアップ創出数及び地域・国内外の課題解決への貢献状況、知的財産権等収入・特許権実施等収入
地域課題解決: 研究・事例に対する自治体・企業からのレピュテーション 等

「Ⅲ 研究大学群の形成」における主な指標
研究大学群の波及効果: 学外に対して共用可能な設備の数 (利用件数)、共著論文数 等

「Ⅳ研究力強化を実現するための大学の経営改革の実現」における主な指標
大学ビジョン: 教員・研究者の研究環境・職場に関するアンケート調査
財務基盤: 資金投入額あたりの成果、計画に基づくリソース配分の質的進捗評価及び資金計画・財務戦略等のJ-PEAKSにおける取組の持続可能性の評価 等

評価方法

定量指標評価・レポート評価・アンケート評価の3つの評価方法[1]を連携させ3段階(3年・5年・10年)で評価を行うことで、単なる数値だけではなく、事業の質的側面も含めた全体的な進捗・成果をより正確に把握[2]

1. 各評価方法の目的は以下のとおり

   定量指標評価:
   定量的なデータ・数値に基づき、進捗や成果を客観的に把握

   レポート評価:
   定量指標の背景にある取り組みの質やインパクトを補完

   アンケート評価:
   各大学に対する統一的なアンケートやステークホルダーに対するレピュテーション評価等を通じ、客観的な視点から評価・成果の信頼性を確認

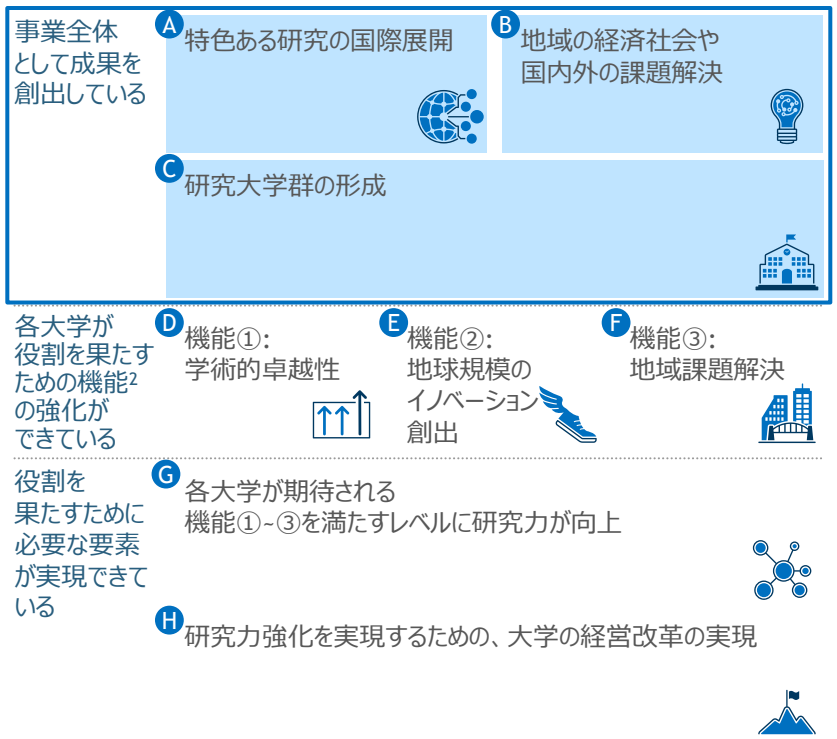
2. 評価指標については、既存調査から取得できるデータを活用し、一部指標のデータのみ大学から求める。また、レポートについても枚数の上限を設ける等、大学の負担に配慮

注釈: 上記については、Research Excellence Framework(英)やHorizon(EU)、BK21(韓)等の政府機関・教育関連機関及び、スタンフォード大学(米)やシンガポール国立大学(シンガポール)等の個別大学を含む20機関への調査を踏まえ設定

J-PEAKSの事業として成功している状態 (1/3)

事業全体として成果を創出している状態(10年目時点の成果[1]を想定)

J-PEAKSの事業として成功している状態



それぞれの状態の定義

A J-PEAKSの採択大学/連携大学等が、それぞれ強みを持つ研究領域において、世界トップレベル・オンリーワンの研究拠点となっていること

- 当該研究領域において、世界トップグループに位置づけられる評価を受け、世界的なプレゼンスを獲得していること
- 他の大学等が行っていない、世界的に唯一無二・固有の研究を行っていること
- 研究ネットワークのハブ機能を果たし、国内外の他大学・研究機関を含む研究拠点を形成していること

B J-PEAKSの採択大学及び連携大学等が、地域経済の活性化、地域振興、地域課題や地球規模の課題 (SDGs、パリ協定 等) の解決に繋がる研究成果の社会実装を実現し、学外のステークホルダーからその成果が認知・評価されている

C 特定の研究領域において、複数の研究拠点間で研究資源を柔軟に共有し、共同研究を行うことで、相乗的・相補的な連携を構築し、成果を創出していること

- 複数拠点: 国際卓越研究大学を中心とした拠点、J-PEAKS採択大学 を中心とした拠点、J-PEAKS連携大学を中心とした拠点等
- ヒト: 複数拠点間で人材の流動性 (異動、クロスアポイントメント、研究者間の交流、イベントやネットワーキングの機会 等) が高まっていること
- モノ: 研究設備の共同利用、研究成果へのオープンアクセス化が進んでいること
- カネ: 研究大学群による共同プロジェクトの組成 (共同研究資金の獲得、コンソーシアムの組成 等) が進んでいること

研究大学群の取組みの横展開等により、J-PEAKS採択大学/連携大学以外にも波及効果が生まれていること

注釈: 1. 主としてJ-PEAKS事業を中心とした成果に限る、2.機能①: 強みを持つ特定の学術領域の卓越性を発展させる機能、機能②: 地球規模の課題解決や社会変革に繋がるイノベーションを創出する機能、機能③: 地域産業の生産性向上や雇用創出を牽引し、地方自治体、産業界、金融業界等との協働を通じ、研究力を活かして地域課題解決をリードする機能

J-PEAKSの事業として成功している状態 (2/3)

各大学が役割を果たすための機能の強化ができている状態(10年目時点の成果[1]を想定)

J-PEAKSの事業として成功している状態

事業全体として成果を創出している

- A 特色ある研究の国際展開
- B 地域の経済社会や国内外の課題解決
- C 研究大学群の形成

各大学が役割を果たすための機能[2]の強化ができている

- D 機能①: 学術的卓越性
- E 機能②: 地球規模のイノベーション創出
- F 機能③: 地域課題解決

役割を果たすために必要な要素が実現できている

- G 各大学が期待される機能①~③を満たすレベルに研究力が向上
- H 研究力強化を実現するための、大学の経営改革の実現

それぞれの状態の定義

D 強みを持つ研究領域において、国内外の研究者/国際的な研究機関よりその成果が評価され、世界トップレベル・オンリーワンの研究拠点となっていること

- 世界トップレベル・オンリーワンの研究拠点の定義は A を参照

E 地球規模の課題解決や社会変革に繋がるイノベーションを創出し、それらの研究成果をもとに国内外での社会実装や産業振興を実現できていること

- 海外を含む民間企業等との大型の共同研究 / 国内外からの大学発スタートアップへの大型投資 等

地球規模の課題を持続的に把握し、産業界等から意見を取入れる仕組み・体制があること

F 地域経済の活性化、地域振興、地域課題解決に繋がる研究成果の社会実装を実現できていること

- 地域企業との共同研究 / 自治体からの助成金獲得 等
- 地域経済の活性化: 経済効果、雇用増 等
- 地域振興: 街づくり、文化振興 等
- 地域課題: 人口減少、高齢化、防災 等

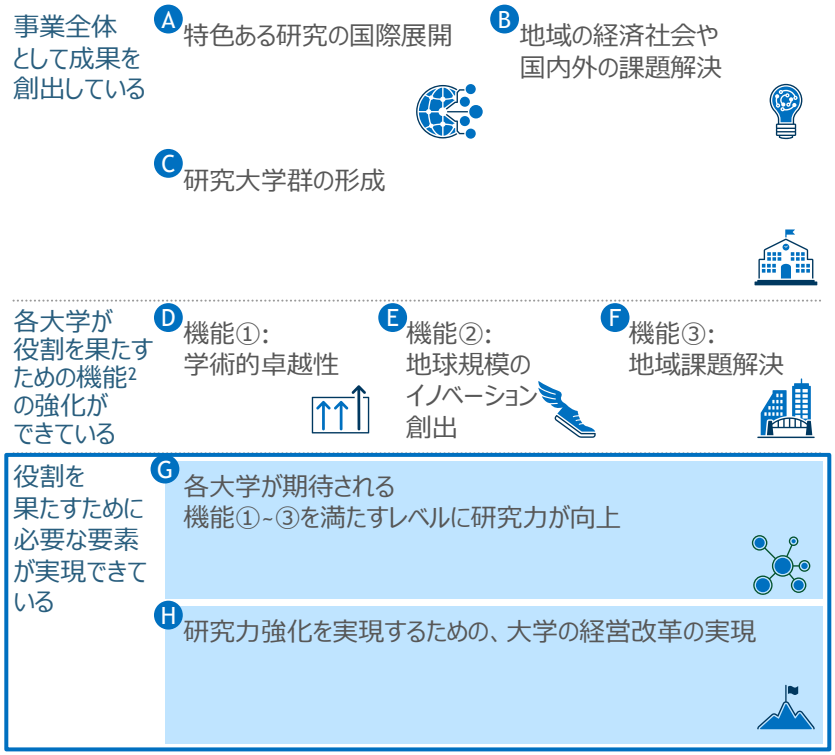
地域課題や地域のニーズを持続的に把握し、自治体や産業界等をリードして取組を推進する仕組み・体制があること

注釈: 1. 主としてJ-PEAKS事業を中心とした成果に限る、2.機能①: 強みを持つ特定の学術領域の卓越性を発展させる機能、機能②: 地球規模の課題解決や社会変革に繋がるイノベーションを創出する機能、機能③: 地域産業の生産性向上や雇用創出を牽引し、地方自治体、産業界、金融業界等との協働を通じ、研究力を活かして地域課題解決をリードする機能

J-PEAKSの事業として成功している状態 (3/3)

役割を果たすために必要な要素が実現できている状態(10年目時点成果[1]を想定)

J-PEAKSの事業として成功している状態



それぞれの状態の定義

G 各大学が目標として定めた、**D**~**F**の機能強化を実現するための指標を達成していること

H 全学、研究科・センター等、プロジェクトの各レベルで大学経営を改革し、成果の創出と継続改善の循環サイクルを構築できていること

- 全学: 全学戦略において、強みとなる研究領域や財務基盤の強化に向けた方針等を決定し、戦略に基づき学内リソースを配分
- 研究科、センター等: 全学戦略に基づき、自組織の研究力強化策の具体化や自組織のリソースを配分
- プロジェクト: 外部資金・リソースを獲得し、個別プロジェクトを組成・実行
- プロジェクト成果を各レベルで発信し、社会実装 (知の価値化) を全学的に推進することで、研究拠点・エコシステムを形成
- 各レベルで取組み状況と成果を点検・評価し、改善を図るプロセスの導入、研究者や研究大学に相応しい支援者 (URA・技術支援者) 等の人材を育成・確保、評価・処遇の改善を通じて、循環サイクルを組織全体へ浸透

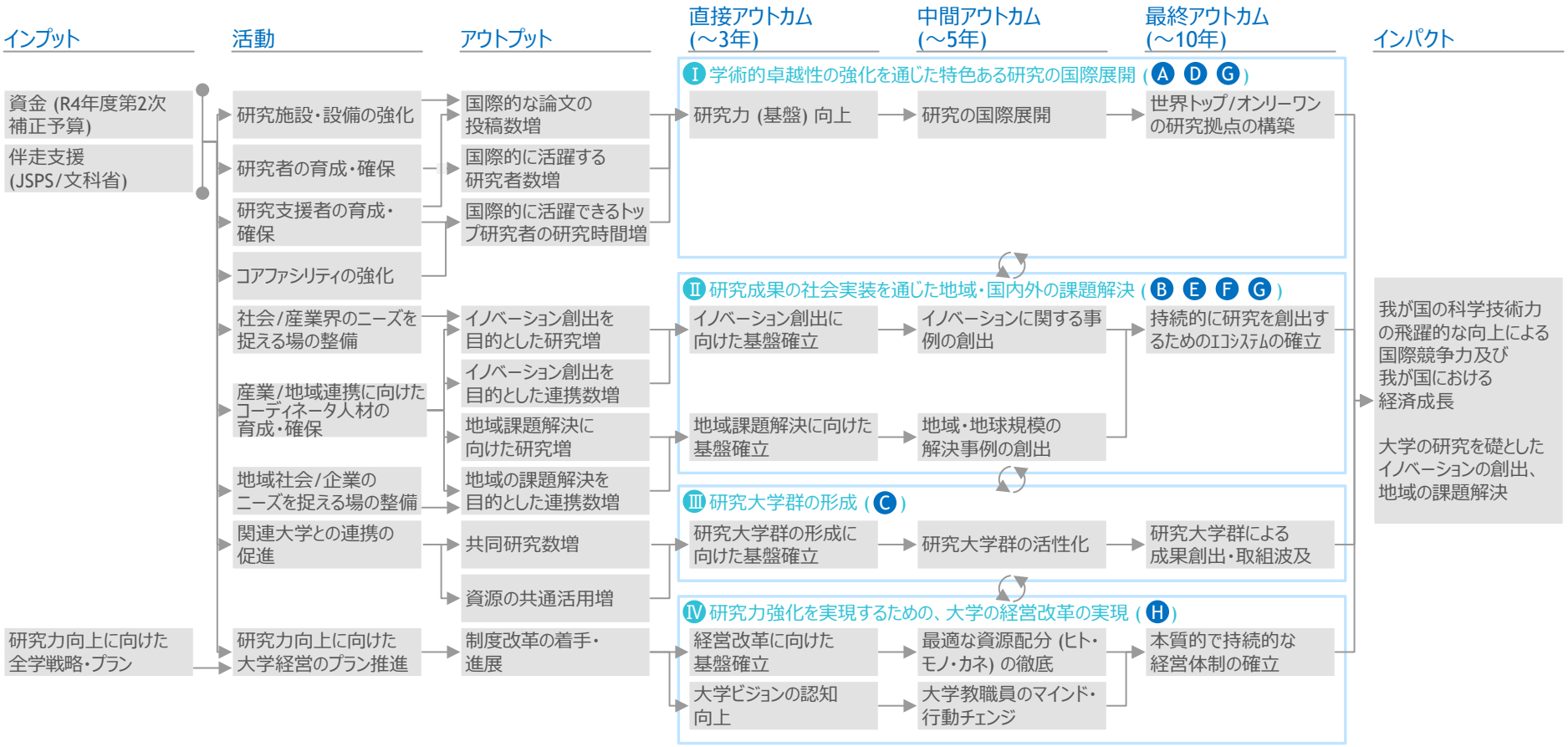
注釈: 1. 主としてJ-PEAKS事業を中心とした成果に限る、2.機能①: 強みを持つ特定の学術領域の卓越性を発展させる機能、機能②: 地球規模の課題解決や社会変革に繋がるイノベーションを創出する機能、機能③: 地域産業の生産性向上や雇用創出を牽引し、地方自治体、産業界、金融業界等との協働を通じ、研究力を活かして地域課題解決をリードする機能

短期・中期・長期の視点で見たJ-PEAKSの事業全体の成功している状態の変化

1年でアウトプット、3年で直接的なアウトカムを測定　～10年までの長期的目線でアウトカムを測定

		短期 (~1年)	中期 (~3年)	長期 ~5年	長期 ~10年
J-PEAKSの事業全体として望ましい変化		**採択大学/連携大学で成果創出に向けて着手できている**	**採択大学/連携大学における取組の基盤が確立している**	**採択大学/連携大学で成果が持続的に創出できる体制が整っている**	**採択大学/連携大学以外へも参考となるような成果が創出できている**
J-PEAKSの事業として成功している各状態の変化	Ⓐ 特色ある研究の国際展開	研究の国際展開に向けた準備を開始	研究拠点に他大学・研究機関等の集積が進み、研究の国際展開に向けた基盤を確立	研究拠点が拡大し、複数の研究テーマで、世界トップレベルの評価を獲得	採択/連携大学が、強みを持つ研究領域において、世界トップレベル・オンリーワンの研究拠点を構築
	Ⓑ 地域の経済社会や国内外の課題解決	地域経済の活性化、地域振興、地域課題、地球規模の課題解決に向けた現状把握・整理を開始	大学と産業界・社会との連携体制を強化し、ニーズを的確に把握するためのネットワークを構築	研究成果の社会実装が進み、社会的インパクトを一部で創出	地域課題・地球規模課題解決に繋がる研究成果が社会実装され、学外からの認知、評価を獲得
	Ⓒ 研究大学群の形成	研究拠点間の交流や、成果創出に向けたルール整備の開始	関連大学間の連携を促進し、研究大学群の形成に向けた基盤を整備	形成された研究大学群が具体的な成果を創出し、大学群のレピュテーション向上によりネットワークが拡大	共同研究の成果が創出され、採択/連携大学以外にも、波及効果が出現
	Ⓓ 機能①: 学術的卓越性	研究の国際展開に向けた準備を開始 (環境整備、人材確保、国際連携 等)	研究成果・研究拠点・研究ネットワークを構築し、研究の国際展開に向けた基盤を確立	研究成果・研究拠点・研究ネットワークが拡大し始め、国際的な認知度が向上を開始	国内外の研究者/国際的な研究機関に評価され、世界トップレベル・オンリーワンの研究拠点を構築
	Ⓔ 機能②: 地球規模のイノベーション創出	地球規模の課題解決に向けた共同研究プロジェクトが立上がり、産業界との対話の仕組みづくりを開始	産学でネットワークを構築し、研究成果の商業化に向けた取り組みを開始	研究成果がイノベーション創出・政策等にインパクトを与え、産業界等から認知・評価される事例を創出	研究成果をもとに国内外での社会実装や産業振興を実現し、かつ左記を持続的に行える仕組み、体制が整備
	Ⓕ 機能③: 地域課題解決	地域課題等に向けた共同研究プロジェクトが立上り、自治体・地域企業との対話の仕組みづくりを開始	地域の活性化に向け各ステークホルダーとのネットワーク・プロジェクトを開始	研究成果がイノベーション創出・政策等にインパクトを与え、自治体・地域企業等から認知・評価される事例を創出	研究成果の社会実装を実現できており、かつ左記を持続的に行える仕組み、体制を整備
	Ⓖ 各大学の機能①～③の強化	Ⓓ ~ Ⓕ の変化が各大学に見られている			
	Ⓗ 大学の経営改革	大学改革に向けた取組みに着手 (組織・ガバナンス体制の整備、事業収支の精査 等)	経営改革に向けた基盤を整備し、かつ大学ビジョンの認知向上	資源が戦略に基づき適切に分配されると共に、組織内の各個人のマインド・行動も変化	成果の創出と継続改善の循環サイクルを構築

ロジックモデル


インプット
活動
アウトプット
直接アウトカム (～3年)
中間アウトカム (～5年)
最終アウトカム (～10年)
インパクト
資金 (R4年度第2次補正予算)
伴走支援 (JSPS/文科省)
研究力向上に向けた全学戦略・プラン
研究施設・設備の強化
研究者の育成・確保
研究支援者の育成・確保
コアファシリティの強化
社会/産業界のニーズを捉える場の整備
産業/地域連携に向けたコーディネータ人材の育成・確保
地域社会/企業のニーズを捉える場の整備
関連大学との連携の促進
研究力向上に向けた大学経営のプラン推進
国際的な論文の投稿数増
国際的に活躍する研究者数増
国際的に活躍できるトップ研究者の研究時間増
イノベーション創出を目的とした研究増
イノベーション創出を目的とした連携数増
地域課題解決に向けた研究増
地域の課題解決を目的とした連携数増
共同研究数増
資源の共通活用増
制度改革の着手・進展
Ⅰ 学術的卓越性の強化を通じた特色ある研究の国際展開 (A D G)
研究力 (基盤) 向上
研究の国際展開
世界トップ/オンリーワンの研究拠点の構築
Ⅱ 研究成果の社会実装を通じた地域・国内外の課題解決 (B E F G)
イノベーション創出に向けた基盤確立
イノベーションに関する事例の創出
持続的に研究を創出するためのエコシステムの確立
地域課題解決に向けた基盤確立
地域・地球規模の解決事例の創出
Ⅲ 研究大学群の形成 (C)
研究大学群の形成に向けた基盤確立
研究大学群の活性化
研究大学群による成果創出・取組波及
Ⅳ 研究力強化を実現するための、大学の経営改革の実現 (H)
経営改革に向けた基盤確立
最適な資源配分 (ヒト・モノ・カネ) の徹底
本質的で持続的な経営体制の確立
大学ビジョンの認知向上
大学教職員のマインド・行動チェンジ
我が国の科学技術力の飛躍的な向上による国際競争力及び我が国における経済成長
大学の研究を礎としたイノベーションの創出、地域の課題解決

評価方法及び評価タイミングの考え方

3つの評価方法を連携させ三段階で評価を行うことで、単なる数値だけではなく、事業の質的側面も含めた全体的な進捗・成果をより正確に把握することを目指す。その際、指標そのもので評価するのではなく、指標から描き出された成果の全体を捉える。成果については、強みや特色ある研究や社会実装の研究拠点等の成果を含めたJ-PEAKSに関連する全学の成果の回答を各大学には期待。

	定量指標評価	レポート評価	アンケート評価
目的	定量的なデータ・数値に基づき、進捗や成果を客観的に把握	定量指標の背景にある取り組みの質やインパクトを補完	各大学に対する統一的なアンケートを通じ、客観的な視点から評価・成果の信頼性を確認
取得方法	各大学からの申告の他、他事業調査等を通じて取得	各大学が指定されたフォーマットでレポートを提出 • 枚数については一定の制限を設定 • 必要に応じて、連携/参画大学の事例を付加的に取得することも可能 • 各指標に該当する事例が無い場合は、一部のレポートについて提出しないことも可能	• 各大学がアンケートに回答し提出
評価方法	定量的な指標の進捗や、国際社会における位置づけ等を評価 • 論文の質・量の伸び率 • Top10%論文数 等 ※定量指標は単体で評価するものではなく、相互の関係を見ながら総合的に評価	特定のエピソードに関するレポートについて、内容や影響を評価 • 社会的インパクト捕捉に向け、政策採用・メディアでの報道 等 • 計画に基づくリソース配分の進捗状況 等 作成/評価段階で相互理解を深めるため、文部科学省等とのディスカッションを実施	アンケートにより客観的に評価 • 大学教職員にアンケート調査を実施し、研究大学として望ましい姿に向けた経年変化を評価

評価の観点

評価はフェーズに応じて3つの段階で実施し、3年目・5年目・10年目でそれぞれ以下の観点で評価方法・指標等を設定。
毎年取得している指標について、経年の質的変化を十分踏まえて取扱う。

3年目	5年目	10年目
成果を「内部でコントロールできる要素」で捉える	成果を「外部からの評価に依存する要素」で捉える	成果を「より広範な領域への影響・評価」で捉える

評価指標一覧

：採択大学にて取得が必要な指標
：定量評価　：レポート評価　：アンケート評価

Ⅰ 学術的卓越性の強化を通じた特色ある研究の国際展開

1. 査読付き論文
2. Top10%論文数
3. 国際共著論文数
4. 研究者数・研究支援者数(大学院博士課程の在籍者数を含む)及び研究者等の育成状況
5. 外部資金収入割合(大学の総予算に占める割合)
6. 国際的な人的交流数
7. 世界的賞の受賞事例
8. 世界Top50に入っている研究領域数

Ⅱ 研究成果の社会実装を通じた地域・国内外の課題解決

1. 大学以外 (自治体・民間企業等) との連携状況やそれを支える体制の構築状況
2. 外部資金収入額
3. 共同研究・受託研究数
4. 大学等発ベンチャー設立数及び地域・国内外の課題解決への貢献状況
5. 知的財産権等収入・特許権実施等収入
6. 地域の政策や地域・地球規模の社会課題に寄与した研究事例
7. 地域の政策や地域・地球規模の社会課題に寄与した研究に対する自治体・企業からのレピュテーション(※取得タイミング：評価タイミングのみ)

Ⅲ 研究大学群の形成

1. 学外利用に対応した共用研究設備・機器の数及び利用件数
2. 共著論文数
3. 研究大学群の形成状況及び利点・波及効果に関する評価
4. 研究施設及び研究設備・機器の共用推進に向けた仕組みの構築状況とそれを通して生まれた成果
5. 第2~4グループの大学群における査読付き論文数
6. 第2~4グループの大学群における Top10%論文数
7. 第2~4グループの大学群における国際共著論文数

Ⅳ 大学の体質改善

1. 教職員・研究者の研究環境・職場に関する調査
2. 資金投入額あたりの評価
3. 計画に基づくリソース配分の質的進捗評価及び資金計画・財務戦略等のJ-PEAKSにおける取組みの持続可能性の評価
4. 地域中核・特色ある研究大学の連携による産学官連携・共同研究の施設整備事業で採択した大学における施設の活用状況 (※施設整備事業採択大学のみの提出)

評価指標一覧（1/4）

Ⅰ 学術的卓越性の強化を通じた特色ある研究の国際展開

: モニタリングの観点で取得を継続
: 採択大学にて取得が必要な指標

指標詳細								
指標			種別	データ取得タイミング	評価タイミング 3年	5年	10年	取得方法
成果指標 - 継続取得	1	査読付き論文数	定量	R7から毎年取得	✓	✓	✓	文部科学省にて一括で取得
	2	Top10%論文数			✓	✓	✓	
	3	国際共著論文数			✓	✓	✓	
	4	研究者数・研究支援者数(大学院博士課程の在籍者数を含む)及び研究者等の育成状況	定量/レポート		✓	✓	✓	個別大学にて取得・提出
	5	外部資金収入割合 (大学の総予算に占める割合)	定量		✓	✓	✓	
	6	国際的な人的交流数						文部科学省にて一括で取得
成果指標・スポット取得 研究力向上 (~3年目)		※継続取得の指標で評価						
研究の国際化 (~5年目)	7	世界的賞の受賞事例[1]	レポート	5年目から毎年取得 ※評価は5年目のみ	–	✓	→	個別大学にて取得・提出
世界トップ/オンリーワンの研究拠点の構築 (~10年目)	8	世界Top50に入っている研究領域数	定量	10年目のみ取得	–		✓	文部科学省にて一括で取得

1. 受賞者インタビュー、審査員コメント、関連報道、公式発表を通じて評価ポイントや受賞理由を収集

評価指標一覧（2/4）

Ⅱ 研究成果の社会実装を通じた地域・国内外の課題解決

□：採択大学にて取得が必要な指標

指標詳細							取得方法
指標		種別	データ取得タイミング	評価タイミング 3年	5年	10年	
成果指標 - 継続取得	1 大学以外（自治体・民間企業等）との連携状況やそれを支える体制の構築状況	レポート	R7から毎年取得	✓	✓	✓	個別大学にて取得・提出
	2 外部資金収入額	定量		✓	✓	✓	
	3 共同研究・受託研究数			✓	✓	✓	文部科学省にて一括で取得 ※レポート部分は個別大学にて記載・提出
	~~4 大学等発ベンチャー設立数及び地域・国内外の課題解決への貢献状況~~	定量・レポート		✓	✓	✓	
	5 知的財産権等収入・特許権実施等収入	定量		✓	✓	✓	
	6 地域の政策や地域・地球規模の社会課題に寄与した研究事例	レポート		✓	✓	✓	個別大学にて取得・提出
	7 地域の政策や地域・地球規模の社会課題に寄与した研究に対する自治体・企業からのレピュテーション		評価タイミングのみ取得	✓	✓	✓	
成果指標・スポット取得	イノベーション創出/地域課題解決に向けた基盤確立(~3年目) 個別研究の成果(事例)創出（~5年目） 地域課題解決に向けた基盤確立(~10年目)	※継続取得の指標で評価					

評価指標一覧（3/4）

Ⅲ研究大学群の形成

➡：モニタリングの観点で取得を継続
□：採択大学にて取得が必要な指標

指標詳細								取得方法
指標			種別	データ取得タイミング	評価タイミング			
					3年	5年	10年	
成果指標 - 継続取得		1 学外利用に対応した共用研究設備・機器の数及び利用件数	定量	R7から毎年取得	✓	✓	✓	文部科学省にて一括で取得
		2 共著論文数			✓	✓	✓	
成果指標・スポット取得	研究大学群の形成開始 (~3年目)	3 研究大学群の形成状況及び利点・波及効果に関する評価	レポート		✓	✓	✓	個別大学にて取得・提出
		4 研究施設及び研究設備・機器の共用推進に向けた仕組みの構築状況とそれを通して生まれた成果			✓	➡		
	研究大学群の活性化 (~5年目)							
	研究大学群による成果創出・取組波及 (~10年目)	5 第2-4グループの大学群における査読付き論文数	定量	R7から毎年取得 ※評価は10年目のみ	➡		✓	文部科学省にて一括で取得
		6 第2-4グループの大学群におけるTop10%論文数			➡		✓	
		7 第2-4グループの大学群における国際共著論文数			➡		✓	

評価指標一覧（4/4）

Ⅳ研究力強化を実現するための、大学の経営改革の実現

□：採択大学にて取得が必要な指標

指標詳細							
指標		種別	データ取得タイミング	評価タイミング			取得方法
				3年	5年	10年	
成果指標 - 継続取得	1 教職員・研究者の研究環境・職場に関する調査 (アンケート・インタビューで評価)	アンケート	強みや特色ある研究や社会実装の研究拠点等の職員はR7から毎年取得 ※その他職員はR7から初年度及び評価タイミングのみ取得	✓	✓	✓	文部科学省によるアンケート等により取得
	2 資金投入額あたりの評価 (例: 投入額あたりの論文数、外部資金収入額)	定量	R7から毎年取得	✓	✓	✓	文部科学省にて他の成果指標を基に算出
	3 計画に基づくリソース配分の質的進捗評価及び資金計画・財務戦略等のJ-PEAKSにおける取組みの持続可能性の評価	レポート、アンケート		✓	✓	✓	個別大学にて取得・提出 文部科学省によるアンケート
	4 地域中核・特色ある研究大学の連携による産学官連携・共同研究の施設整備事業で採択した大学における施設の活用状況 (※施設整備事業採択大学のみの提出)	レポート		✓	✓	✓	個別大学にて取得・提出
成果指標 - スポット取得	経営改革に向けた基盤確立大学ビジョン認知向上 (~3年目)	※継続取得の指標で評価					
	最適な資源配分大学職員のマインド/行動チェンジ (~5年目)						
	本質的で持続的な経営体制の確立 (~10年目)						